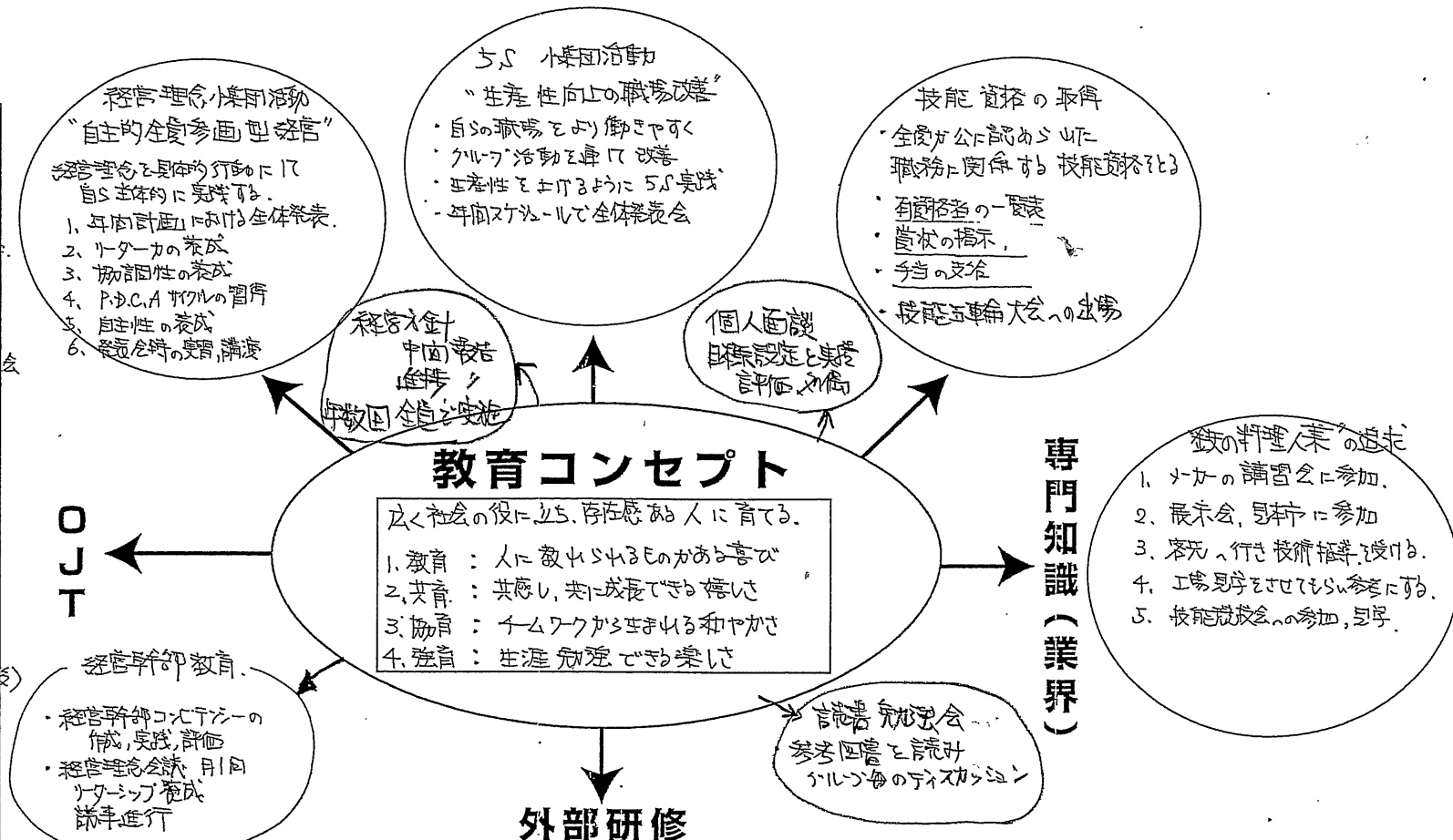


教育研修体系図

<p>新入社員教育カリキュラム</p> <p>① 経営理念 社是 規則 小集団活動 などの説明 社長+経営幹部</p> <p>② ノートの提出(月報) (2日回)</p> <p>③ 新入社員コンコンシーの作成 実践 評価</p>
<p>職能教育</p> <p>① 手付け、クレーン、ボクシングの講習会</p> <p>② 毎週月報 朝礼での勉強会</p> <p>③ 技能検定に向けての職場別勉強会</p>
<p>態度教育</p> <p>① 身礼 - 顔、明るく、素直、あはれ</p> <p>② 掃りの清掃、毎朝のトイレ清掃</p> <p>③ 週末のトイレ清掃 (ローテーション)</p> <p>④ 年齢別コンコンシーの作成 実践 評価 (今後)</p>
<p>可能思考教育</p> <p>① 心の中の3つの約束</p> <p>② No.1 制度 (存在感の確立)</p> <p>③ あいかとしカード</p>
<p>パートさんの教育カリキュラム</p> <p>1 マナー面</p> <p>2 技術面</p>



可能思考教育(自己啓発)	態度教育	職能教育
<p>日創研</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SA研修 2. SC研修 3. LT研修 4. TT研修 <p>倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新入社員研修 2. MS 	<p>日創研</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TA研修 2. 新入社員研修 <p>倫理</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 朝礼研修 2. 新入社員研修 3. MS <p>・ 安全衛生教育</p>	<p>日創研</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管理職養成 6ヶ月 2. 業務アップ 6ヶ月 3. 管理スタイル 4ヶ月 <p>日創研</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 例会 2. 社会教育研修 <p>ホリワ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種技能講習 <p>中創研</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種専門講習 <p>その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 手付け、クレーン 2. アークカット講習 3. ボクシング

階層別

自創	中堅社員研修
手付け	リーダーシップ研修
リンク	監督者
アップ	管理職
実践	経営幹部

目的	お客様に愛されること	社員が長く勤められること	適正な利益を得ること	地域を活性化させ、貢献すること	時流に合わせ、会社も社員も共に改革すること
チーム名	トライアングル	理念2	メダリスト	フレンドリー	サンクス
ビジョン	全員で、小さい事から コツコツと！！	全員で仲良く 楽しいやろう！！	みんなで楽しく 目指すは、金メダル！！	全員参加で、 サインは V！！	全員一致でチャレンジする 明るいチーム！！

理念活動行動方針

※HB※小集団活動

トライアングル - お客様に愛されること

納期の厳守	加工前図面を見た時、作業者が作業指示書の納期の上に日付と名前を記入する。
心のもったあいさつ	来客があった時、全員が丁寧なあいさつをする。(顔をさげる・声を出す)
会社をいつもキレイにする	毎日仕事が終わったら、全員が通路の床掃除をする。

理念2 - 社員が長く勤められること

目標意識の向上	月一回(給料日)に定時退社日を設定し、全員が17時30分までに退社する。
形式にとらわれない話題提供	二ヶ月に一回、全体朝礼で5分間程度、コミュニケーションとしての話題の提供をメンバー交代で発表する。

メダリスト - 適正な利益を得ること

節約をする	照明のチェック・水量のチェック
不良を出さない	毎月一回(第一週の水曜日)不良件数のグラフを作り、社内に貼る。 ・各部署で毎日、工具・測定具をマーキングをした位置へ戻す。
能率を上げる	・技能検定や講習会の情報を雑誌などから探し、グループが掲示板に提示する。

フレンドリー - 地域を活性化させ、貢献すること

外庭の手入れ 地域のボランティア ゴミひろい	年に三回、道路(会社周辺)の空き缶・ゴミ等を拾う。
通勤時の交通安全	月に一回、グループで安全標語を考え、それをポスターにして社内に貼る。
買い物は地域内で するように心がける	池田町内のガソリンスタンド(コスモ)の現金カードをつくり、ガソリン・軽油等そこで入れるようにする。

サンクス - 時流に合わせ、会社も社員も共に改革すること

固定観念にとらわれず、時代に合った物作りをする	毎月2回(第1・第3の金曜)新聞等の注目すべき記事を階段下の掲示板に貼る。
資源は有限と認識し、実践する	プラスチック類・紙・ウエス類の専用箱を設置し、満杯になったらメンバーが片付ける。
【職場の教養】を活用し自己啓発をする	毎月始め、教養集新月号の中から実践テーマをメンバーで決めてタイムカード横に貼る。

全社員総力を上げて
経営理念の浸透に努力しています

赤田 弥寿文

日本のポテンシャルを活かす 『小水力発電』

高校生が製作した

小水力発電装置が照らす明るい未来

「池工版デュアルシステム」で完成した小水力発電装置。ハート型のLED照明が点灯する

小水力発電装置でLED照明を点灯

東京電力福島第一原発事故後、自然エネルギーのひとつとして小水力発電への関心が高まっている。

そんな中、長野県池田工業高校（池田町）の3年生が今年2月、町内の赤田工業の指導のもと6年間にわたり製作してきた小水力発電装置を完成させた。同社裏を流れる幅1メートルほどの水路「昭和堰」にドラム型水車で発電機を回し、最大出力100ワットで発電。毎日薄暗くなると、水路脇の3つのハート型LED照明が緑、赤、オレンジに点灯する。

これは生徒が地元企業で研修する「池工版デュアルシステム」の一環。参加生徒は3年次の1年間、週1回4時間、地元企業・事業所に出向いて実習。実践的な技術を身につけるとともに、職業観や社会観といった職業人としての資質を磨く。平成18年度、池田工高が長野県下の高校で初めて導入した。

赤田工業は当初から生徒を受け入れ、小水力発電装置の開発を始めた。赤田彌壽文社長はその経

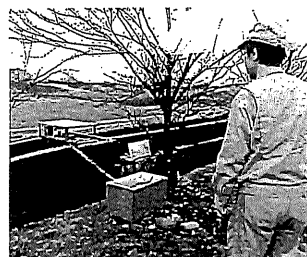
緯を次のようにふり返る。「当時も省エネや小水力発電などが話題になっており、水車をつくるなら高校生でもそれほど難しくないだろうと。一方、当社は図面があれば何でも加工できるが、水車そのものの設計は不得手。高校生の指導をしながら、社員が図面化のプロセスを学ぶ機会にもしたいと考えてスタートしました」。

煩雑な書類申請を経て「水利権」を取得

当初から生徒を指導するのは、同社生産技術課の宮川栄二さん。まず水の流れを機械的なエネ



赤田彌壽文社長（左）と宮川栄二さん



「手前の箱が昼間発電した電気を貯めておく蓄電器」と宮川さん

「毎年試行錯誤しながらやってきたので6年かかりました」と宮川さん。「でも生徒たちは皆、ものづくりに感動。一番時間がかかったのは設計で図面をつくるのも大変でしたが、カタチにしていく喜びは大きかったようです」。

完成までの6年間、数々の失敗や発電機の購入などさまざまなエピソードがあるが、一番は「水利権」の取得だろう。最初は「流れている水をちょっと使う」という程度の認識。その後、水利権があり国に許可申請しなければならないことが分かる。教育の一環ということもあり、県地方事務所の担当者が労を惜しまず煩雑な申請書類をまとめてくれ、ようやく認可が下りたという。

同社は今後も生徒を受け入れ、小水力発電に取り組む。「地元これだけ豊かな水力エネルギーがある。今後街灯を小水力発電でまかなえるようになるのではないかと。技術を深めていくことが社内教育にも池田工高生のスキルアップにもつながるので、ぜひ挑戦したいと考えています」と赤田社長は意欲を見せる。



赤田工業

「水利権」問題が大きな障害に

「水と空気の密度は847倍違い、風力に比べ水のエネルギーは圧倒的に大きい。山間地が多い長野県は小水力発電にとっても有利」。そう話すのは、国

内シェアトップクラスの発電用タービンプレード製造メーカー、(株)ティービーエム（宮田村）の山田益社長。小水力発電にも詳しく、自然エネルギーの中での可能性に注目する一人だ。

日本の降雨量は世界6位。急峻な山も多く、水力発電に適した条件を備える。ダムは年月が経つと土砂で埋まってしまい環境へのダメージも大きい。小水力発電はもともとある豊かな水の流れを利用するので環境への影響はほとんどない。「高性能な小水力発電用のポンプ、水車が開発されるなど技術も進んでいます。この分野で日本がさきがけになる可能性はすごく高い」と山田社長は期待を寄せる。

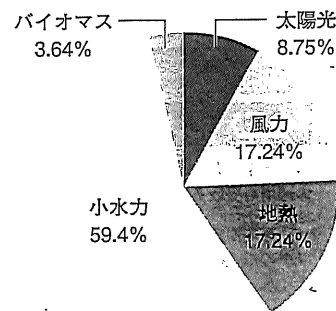
ただ大きな障害になっているのが、やはり「水利権」の問題。河川は国土交通省、農業用水は農水省、工業用水や発電は経済産業省と監督官庁はそれぞれ。しかも、例えば出力1キロワット未満の小さな発電機を設置するにも、非常に煩雑かつ膨大な書類の提出を求められるという。

「大規模施設での集約型発電は送電中にかなりのロスが出る。ならば分散型の小水力発電で電力を地産地消すればいい。日本のポテンシャルを活かすためにも、下流に迷惑をかけないシステムなら水利権の対象から外すなど、柔軟な対応が必要だと思います」。山田社長の言葉に力がこもる。



山田益ティービーエム社長

再生可能エネルギーによる発電比率



出典：千葉大学倉阪研究室+NPO法人環境エネルギー政策研究所『永続地帯報告書2010』

月刊 中小企業レポート 2012.4 長野県中小企業団体中央会 発行

(資料8)